

I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 56

Richard "Groove" Holmes [リチャード・“グルーヴ”・ホルムズ]

～ソウル・ジャズを代表するジャズ・オルガンの巨人～

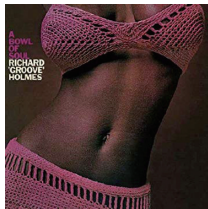


Photo : Richard "Groove" Holmes (America)

Profile

1931年5月2日、米国ニュージャージー州カムデン生まれ。本名はRichard Arnold Holmes。ミドルネームの“グルーヴ”はニックネーム。独学でオルガンを学ぶ。その後、地元ニュージャージーを中心にジャズ・クラブで地道な活動を続けていたが、20代の終わりまではほとんど無名だった。60年ペンシルバニア州ピッツバーグでレス・マックヤンにその腕を認められ、パシフィック・ジャズ・レコードに推薦されて契約を果たす。61年にファースト・アルバム『グルーヴ』をリリース。65年にプレスティッジに移籍。同年リリースされたアルバム『ソウル・メッセージ』からシングル・カットされたエロール・ガーナーのカヴァー「ミスティ」のショート・ヴァージョンがビルボードのポップチャート44位にチャートインし、ジャズでは異例の大ヒットを記録。68年に再びパシフィック・ジャズ・レコードに戻り70年まで在籍。その後は、ブルーノート、73年にジミー・マクグリフとの2大オルガン・スター競演を実現させたアルバム『ジャイアンツ・オブ・ジ・オルガン・カム・トゥギャザー』をリリースしたグループ・マーチャントをはじめ、フライング・タッチマン、ヴァーサタイル、ミュージズ等のレーベルに在籍して多くの名盤・名演を残す。生涯で約40枚の自己名義のアルバムをリリース。残された音源の数々はジャンルを超えてサンプリング/リアグルーヴ世代に高い人気を誇り、サンプリングされ続けている。最晩年のステージの1つは、長年の友人でもあったブルース・シンガーのジミー・ウィザースプーンと出演した1991年の「シカゴ・ブルース・フェスティバル」だった。1991年6月29日、前立腺ガンを患っていた中、心臓発作により米国ミズーリ州セントルイスで死去。享年60歳。

リチャードが豪華なオーケストラをバックに吹き込んだ名作



ア・ボウル・オブ・ソウル
リチャード・“グルーヴ”・ホルムズ
(Groove Hut : GH-66707) [Import CD]

リチャード・“グルーヴ”・ホルムズ (org)、
ボビー・フライアント、バド・プリスボイス、
メルヴィン・ムーア (tp)、他

1. ア・ボウル・オブ・ソウル 2. イン・ザ・ダーク
3. アイム・ゴナ・ムーヴ・トゥ・ジ・アウト
スカーツ・オブ・タウン (他、全15曲)

白熱のライヴを収めたアルバム



X-77
リチャード・“グルーヴ”・ホルムズ
(World Pacific Jazz : ST-20163) [Import LP]

リチャード・“グルーヴ”・ホルムズ (org,
vo)、ソーネル・シュワルツ (g)、ポプ・
ウェスト (b)、ポール・ハンフリー (ds)

[Side-A] 1. バイ・ザ・タイム・アイ・ゲット・トゥ・
フェニックス、他 [Side-B] 1. クワイエット・ナ
イツ・オブ・クワイエット・スターズ (他、全8曲)

リチャードがスウェーデンのレーベルに遺した幻の名盤



スウェディッシュ・ララバイ
リチャード・“グルーヴ”・ホルムズ
(P-VINE : PCD-24800)

リチャード・“グルーヴ”・ホルムズ (org)、
ウィリー・エイキンス (ts)、ウィリー・ペ
ティス・ジュニア (g)、他

1. ジャスト・ワン・オブ・ゾーズ・シングス 2.
グルーヴズ・グルーヴ 3. ワン・ハンドレッド・
ウェイズ 4. セオドラ (他、全6曲)

リチャードが1964年7月に残した『ア・ボウル・オブ・ソウル』と同セッションで収録された全15曲を完全収録した作品。最初の7曲はオリジナルLPに収録された音源。オンジー・マッシュズがアレンジと指揮を担当した総勢18名の豪華オーケストラをバックにリチャードのグルーヴが炸裂する。「ナイト・トレン」「R.F.K. フライズ・ホーム」「オルガン・グラインダー」の粋で見事なスイング感も最高。ジャケットもセクシー。

1969年にロサンゼルス南部ハーモサ・ビーチに付む名門クラブ「ライトハウス」で録音されたライヴ音源。タイトルの『X-77』は当時の Hammond・オルガンの新機種の名称らしいが、ボサノヴァ・ナンバーからブルース・ナンバーまで、バラエティに富んだ選曲も興味深い。中でも、リチャードのいぶし銀のヴォーカルが聴けるトニー・ジョー・ホワイトの「ポー・サラダ・アニー」、高速グルーヴ・ナンバー「リックス・アプレント」等がお薦め。

スウェーデンのレーベル“SISON MUSIC”から1984年に発表された本作は、スウェーデンで数百枚、リチャード本人が数百枚販売したのみで広く流通しなかったアルバム。そのため、幻の名盤と化していたが、P-VINEから購れて世界初CD化となった。タイトル曲のスウェーデンの子守歌や「キラ・ジョー」他、スイング感、疾走感、グルーヴ感にメロウでファンキーなりチャード節が炸裂する。リチャード本人もお気に入りの傑作。

ミスター“グルーヴ”!

ジミー・スミスやジミー・マクグリフと並ぶジャズ・オルガンの巨人と称されるリチャード。ジミー・スミスの知名度の高さにやや埋もれがちな印象があるが、愛称でもあるその独特のグルーヴ感は正にワンアンドオンリー。ジミー・マクグリフは10代の頃にピアノやサクソ、ヴィブラフォン等を演奏していたが、リチャードに触れたことで Hammond の音色に魅了され、オルガン奏者の道を歩んだ。また、モダン・ジャズの黄金時代を駆け抜けた偉大なるベースマン、ポール・チェンバースもリチャードの大ファンだったそうで、作品を愛聴していたそうだ。

継承されるグルーヴ魂

還暦を迎えて直ぐの1991年にこの世を去ったリチャード。そのグルーヴ魂は次世代に引き継がれ、特にサンプリング/レアルグルーヴ世代に高い人気を誇っている。リチャードの死の翌年、1992年に人気音楽ユニットでリチャードをリスペクトしていたビースティ・ボーイズがアルバム『チェック・ユア・ヘッド』を発表して大ヒットしたが、アルバムの中でリチャードへの追悼曲「グルーヴ・ホルムズ」を収録し話題となった。リチャードのアルバム『ニュー・グルーヴ』に収録の「ノー・トラブル・オン・ザ・マウンテン」等も人気サンプリング曲のひとつだ。

Jazz Standards (ジャズ名曲列伝) Vol.29

~ Misty [ミスティ] ~

この曲は1954年にジャズ・ピアニストのエロール・ガーナーが作曲したナンバーで、曲のタイトルはこの曲を聴いたエロール・ガーナーの友人が「霧のようにぼんやりした曲」と評したことが由来とされる。後にジョニー・パークにより歌詞がつけられたが、1959年にジョニー・マティスが歌ってヒットしたことで数多くのアーティストにカバーされ、現在までスタンダードとして親しまれている。ジャズ以外ではレイ・スティーブンスのカヴァーも有名。

★この名曲が聴けるお薦めのアルバム

- エロール・ガーナー『コントラスト』
- エラ・フィッツジェラルド『マック・ザ・ナイフ〜エラ・イン・ベルリン』
- リチャード・“グルーヴ”・ホルムズ『ソウル・メッセージ』
- 山本剛トリオ『ミスティ』
- レッド・ガーランド『ミスティ・レッド』